

国立民族学博物館の収蔵品②

世界各地のムスリムの日常



中央・北アジア展示場の礼拝用敷物、お守り、ベール各種



試作中のみんなぱっく「世界のイスラーム（仮題）」には、日本、中国、インドネシア、マレーシア、パキスタン、インド、イラン、カザフスタン、ウズベキスタン、ドイツ、イギリス、アメリカ、セネガルで集めたムスリム・グッズが詰まっている

教室で利用できる学習ツールとして、実物を手に取り、試着できる貸し出しキット「みんなぱっく」もある。すでに運用中の「イスラーム教とアラブ世界のくらし」と「アラビアンナイトの世界」のバックに加え、アラブ世界以外の各地のムスリム・グッズを比較できる新規のバックを制作中で、二〇一八年度から運用開始の予定である。

（山中由里子）

イスラーム（イスラム教）に対する一般社会の認識では、「戒律が厳しい」というイメージや紛争やテロとの結びつきばかりが先行しているが、それは情報の不足と偏りに拠るところが大きい。また、教科書や参考書から日本人が知り得るイスラームに関する知識も、教義の基礎の部分のみである。実際にはさまざまな地域・宗派・社会層・年齢層のムスリム（イスラーム教徒）の多様な日常の宗教実践があることを知る機会が、現地に滞在したり、身近にムスリムの知り合いがない限り、なかなかない。しかし、みんなぱくに来れば、世界各地のムスリムの信仰に関わるモノを身近に見ることができる。

当館では、二〇〇七年度から二〇一六年度にかけて実施された本館展示の大規模リニューアルを経て、イスラーム誕生の地である西アジア展示場だけでなく、複数の地域展示場にイスラーム関連の展示品が加わり、世界各地のムスリムの物質文化を地域横断的に比較することが可能になった。

西アジア展示場を出発点とし、まずはアラビア文字、祈りの作法、身

だしなみと信仰心、巡礼などに関わる展示物と解説を見てほしい。イスラームに先行する一神教であるユダヤ教とキリスト教との関係性について触れたコーナーもある。そこから、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、南アジア、東南アジア、中央・北アジア、中国地域の文化、日本の文化の順に展示場をまわり、世界各地に住むムスリムの生活と信仰に関わるモノを探してみよう。アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国のように古くからムスリムが住み独自の物質文化を形成してきた地域がある一方で、ヨーロッパ、アメリカ、日本など、近年においてムスリム移民の人口が増え、社会・経済的に重要な存在となっている地域もある。

イスラーム関連のモノを辿って各展示場をまわると、アラビア語で書かれたコーラン、聖地メッカに向かって行う礼拝、服装や食べ物に関する戒律など、世界中のムスリムが共有する要素が浮かび上がってくると同時に、それぞれの土地に根ざしたイスラームのあり方もまた見えてくる。一見すると漢字の書のように見える中国のアラビア文字書道作品、刺繍が細かく施された中央アジアの女性用ベール、東南アジアのハラール食品などに、イスラームが地域独特の物質文化・食文化・音文化との融合した様子や、その地域のムスリム・コミュニティの歴史や他宗教との関係性について考察する手が見つけられる。近々運用開始予定のワークシート「みんなぱくを探検しよう！イスラーム編」を来館時に活用すれば、このテーマに関して充実した学習プログラムを展開していただけるであろう。